

寄贈図書リスト

理科年表 2026, 国立天文台編, ポケット版: A6

判・机上版: A5判, 1224ページ, ポケット版:
1,500円+税・机上版: 3,200円+税, 丸善出版



月報だよりの原稿は毎月20日に締切り、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。ご投稿いただいた記事は、翌月初旬に一度校正をお願いいたします。

記事の投稿は、e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp 宛にお送りください。折り返し、受領の連絡をいたします。

研究助成

公益財団法人天文学振興財団 2026年度研究助成等応募

当財団は、天文学の振興に寄与することを目的として、天文学に関連する分野の研究、教育および普及活動への必要な経費を助成いたします。

公益財団法人天文学振興財団 理事長 観山正見

1. 応募種目

[1] 国際研究支援事業

(1) 研究に対する助成

- ・対象: 天文学に関する研究に従事する若手研究者（申請者は原則35歳以下とする）
- ・助成: 研究経費（設備備品費、消耗品費、その他）1件あたり100万円以下

(2) 国際交流に対する助成

- ・対象: 天文学に関する海外での国際交流活動（1ヵ月以内）に2026年6月以降参加する研究者
- ・助成: 参加に要する往復航空運賃および滞在費

(3) 国際研究集会開催および参加に対する助成

①国際研究集会開催に対する助成

- ・対象: 2026年7月以降に国内外において天文学に関する国際研究集会を開催する研究者グループ
- ・助成: 1件あたり100万円以内。

②国際研究集会参加に対する助成

- ・対象: 2026年6月以降に海外で開催される天文学に関する国際研究集会に参

加、発表する研究者

- ・助成: 派遣に要する往復航空運賃および滞在費

[2] 普及・啓発支援事業

(1) 普及・啓発活動に対する助成

- ・対象: 天文学および関連分野の普及・啓発事業を行う個人、団体
- ・助成: 事業経費（設備備品費、消耗品費、その他）1件あたり100万円以内。

(2) 「スター・ウィーク協力イベント」に対する助成

- ・対象: 「スター・ウィーク2026」に協力する団体
- ・助成: 開催経費等

2. 申込期限:

- ・[1]-(1)・(2)・(3)-②, [2]-(1) は、2026年5月末日、9月末日、2027年1月末日の計3回
- ・[1]-(3)-①は、第1回が2026年5月末日（対象期間が2026年7月以降の開催）
第2回が2026年9月末日（対象期間が2026年11月以降の開催）
第3回が2027年1月末日（対象期間が2027年3月以降～2027年6月末日迄の開催）
- ・[2]-(2) は、2026年5月末日

3. 選考結果: 選考委員会が審査の上、採択の可否について各申込期限の約1ヵ月後に文書で通知します。

4. 報告: [1]-(1) は年度末、それ以外の助成は帰国後または開催後1ヵ月以内に報告書を提出すること。

5. 申請方法: 天文学振興財団ホームページ上にWordファイルとPDFファイルを掲載します。

申請書類は、一つのPDFファイルにまとめて電子メールに添付し、締切期限までに以下のメール

アドレス宛にお送りください。

shinsei@fpastron.jp

天文学振興財団より受理確認メールを返信いたします。

6. 問合せ先：公益財団法人天文学振興財団 事務局
〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台内
Tel: 0422-34-8801
Fax: 0422-34-4053
<http://www.fpastron.jp/>

賞の推薦

公益財団法人天文学振興財団 2026年度天文学業績表彰応募

当財団は、社会における天文学の振興に寄与するため、天文学に関連する分野での顕著な業績に対して表彰をいたします。

公益財団法人天文学振興財団 理事長 観山正見

1. 応募種目

[1] 古在由秀賞

(1) 選考基準（以下のいずれかに該当する者）

- ①広い意味で理論天文学研究において顕著な業績をあげた研究者
- ②天文学の広報普及に貢献した者（アマチュアも含む）
- ③広い意味で重力波天文学の貢献に顕著な業績をあげた研究者
- ④国際的に天文学の推進（特にアジアの天文学）に貢献した者
- ⑤天文学の推進に関して管理運営等において優れた業績をあげた者

(2) 対象

- ・当該年度当初において45歳以下であること（個人または研究グループの代表者）。また、応募は推薦に依るものといたしますが、他薦・自薦の別は問いません。

[2] 吉田庄一郎記念・ニコン天文学業績賞

(1) 選考基準 以下のいずれかに該当する者

- ・新たな天体観測手法の研究・開発で顕著な業績をあげた者
- ・天体観測技術の研究または開発分野で顕著な業績をあげた者
- ・新たな天体観測手法・装置の研究・開発を

通じて産業界の発展に顕著な寄与をなした者

(2) 対象

- ・当該年度当初において50歳以下であること（個人またはグループの代表者）。また、応募は推薦に依るものといたしますが、他薦・自薦の別は問いません。

2. 表彰件数：両賞とも原則として1件／年
3. 応募期限：両賞とも2026年10月末日
4. 選考結果：両賞とも選考委員会で審査の上、結果について2027年1月下旬に文書で通知します。
5. 申請方法：天文学振興財団ホームページ上にWordファイルとPDFファイルを掲載します。応募書類は、できるだけ一つのPDFファイルにまとめて電子メールに添付し、応募期限までに以下のメールアドレス宛にお送りください。

shinsei@fpastron.jp

天文学振興財団より受理確認メールを返信いたします。

6. 問合せ先：公益財団法人天文学振興財団 事務局
〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台内
Tel: 0422-34-8801
Fax: 0422-34-4053
<http://www.fpastron.jp/>

会務案内

第9期日本天文学会代議員選挙 開票結果報告

公益社団法人日本天文学会第9期代議員（任期2026-2029年度）の選挙の開票を2025年12月11日に行いました。有権者数2,377人のうち978人から投票があり（投票率41.1%）、投票総数9,780のうち、有効票数8,050、無効票（白票）数1,730でした。

代議員選挙施行細則第10条に基づき、定数24名の当選者を得票順に決定し、「当選しなかったもののうちで2番目までの得票のものを補欠とする」に従い、25-26番目の得票者2名を補欠として順位と共に決めました。

本選挙により選出された代議員および補欠代議員の方々は以下の通りです。

選挙管理委員会委員長 山崎 了

当選代議員

順位	氏名	得票数
1	泉 拓磨	246
2	犬塚修一郎	243
3	野村英子	237
4	井岡邦仁	223
5	石川遼子	209
6	大栗真宗	204
7	坂井南美	202
8	志達めぐみ	201
9	鈴木 建	192
10	河野孝太郎	188
11	高橋慶太郎	187
12	町田真美	184
13	児玉忠恭	175
14	仏坂健太	169
15	平松正顕	163
16	井上剛志	161
16	富田賢吾	161
18	久保真理子	157
19	勝川行雄	144
20	安井千香子	143
21	栗田光樹夫	138
22	下条圭美	136
23	伊藤洋一	135
23	吉田二美	135

補欠代議員

順位	氏名	得票数
1	浅野勝晃	132
2	東谷千比呂	122
		以上

天文月報 119 巻 3 月号 主な掲載予定記事

研究奨励賞：連星中性子星合体の物質放出と重元素合成【藤林翔】

ASTRO NEWS: XRISM ニュース (7): XRISM International Conference 2025 開催【山口弘悦・榎戸輝揚】

EUREKA: 同時代観測記録から見るダルトン極小期【早川尚志】

天球儀：福島県立白河旭高校での手作り電波望遠鏡を用いた中性水素 21 cm 輝線の全天観測と電波地図作成
【根本靖彦・蓮見咲弥・橋本真実・菅野晃生・菊地佑真・小林優斗・塚田涼雅・百瀬宗武・浅山信一郎】

〈シリーズ〉天文学者たちの昭和：番外編・これまでの連載まとめ【高橋慶太郎】

編集委員：日下部展彦（編集長）、岡本文典、小山翔子、志達めぐみ、鈴木大介、高橋葵、田中壱、谷川衝、鳥海森、中島亜紗美、信川久実子、橋本拓也、福島肇、藤澤幸太郎、宮武広直、宮本祐介、守屋堯

令和 8 年 1 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0801 新宿区山吹町 332-6 株式会社 国際文献社

定価 733 円（本体 667 円） 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務所）／0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487

振込口座：郵便振替口座 00160-1-13595 日本天文学会

三菱 UFJ 銀行 三鷹支店（普）4434400 公益社団法人 日本天文学会

日本天文学会のウェブサイト <https://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会 2026 年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）